

2014日本学生トライアスロン選手権

競技規則（ローカルルール）と主要注意

必ず熟読の上大会に臨むこと

■はじめに

本大会は、日本トライアスロン連合（以下、「JTU」とする）競技規則に加え、「日本学生トライアスロン選手権ローカルルール」を設定して競技を行う。なお、特別に指定された項目以外はすべて共通とする。

■大会運営において

円滑な学生大会の運営を行うために、時間厳守とする。時間変更などの伝達においては大会本部前に掲示する。選手は各人の責任で伝達事項について注意を払うこと。遅刻などにおいては厳重なペナルティを課すこととする。

■競技規則・備品について

- ①参加の選手は、水温20℃以下の場合ウェットスーツ着用義務とし、21℃以上の場合原則として着用不可とする。（水温、ウェットスーツの着用については、当日公式掲示板に示す。）
- ②バイクはロードレーサーであること、JTU競技規則を参照。ロードレーサーでなければ出場できない。
- ③新機材、新製品、手作り品の使用については、受付時に申告し、個別審査を受ける。
- ④ペインティング・タトゥーシール等は禁止とする。
- ⑤DHバー（アタッチメントバー、肘当てパットを含む）の使用は禁止し、通常のドロップハンドルのみを使用を許可する。DHバーを使用している場合、出場できない。
- ⑥ホイールは、スポークが12本以上のものとし、バトンホイール・ディクホイールの使用は禁止する。
- ⑦本大会ではドラフティング許可のため、後部が尖った形状のタイムトライアル(TT)用ヘルメットの着用を禁止とする。
- ⑧バーエンドのキャップが外れている場合、大会の出場を認めない。ただし、バーエンドをテープでふさぐなどの措置をうけたバイクについて、エンドキャップについては適格とする。

- ⑨ボディマーキングは両腕、両足に行う。
 - ⑩レースナンバーは必ず身体の前後に取り付けること。
 - ⑪レースナンバーは必ず審判が視認できるように装着すること。レースナンバーの装着に不備がある場合は審判の指示に従うこと。
 - ⑫ユニフォームにつけたレースナンバーが、外れるまたは破れた場合、審判・係員が確認
 - ⑬できるように提示するか、競技中に付け直せば、競技を続けてもよい。
 - ⑭ストックホイールは大会前日の受付で登録したホイールのみ認める。なお、設置は運営側で行う。ストックホイールは大学内のみの共有を認める。また、各大学の出場者10人につき前後1セットまで認める。個人での出場者も前後1セットまで認める。
 - ⑮トランジション開放の際、バイクやその他競技備品の回収には選手本人があたり、レースナンバーを係員に提示すること。
 - ⑯救護にかかっているなどのやむを得ない理由で競技備品の回収ができない選手については、当該選手と同じ大学・チームの者に回収の代理を認める。
- 又、その際は当該選手のレースナンバーなどを代理人は持参すること。

■ レースウェアについて

- ①本大会では前あきユニフォームの着用を禁止とする。
- ②学校名・大学チーム名、および市販されている状態でのメーカー・ブランド・ショップ名のロゴ表示のみとすることを推奨する。

■ ペナルティについて

ローカルルール及びJTUルールに違反する行為に対しては1回につき15秒のペナルティを与える。

競技中に適用を受けなかった場合でも違反行為が認められた場合はレース後にペナルティを受けることがある。

■ 主要注意

- ①バイクコースの下見は大会前日までとし、その際ヘルメットの着用を義務づける。
- ②競技中でも交通ルールを厳守すること。
- ③観客、プレス、主催者関係者、地域住民に注目されていることを認識し、良識ある行動を心がけること。暴言を吐くなどスポーツマンシップに相応しくない行動が見られた場合、当該選手は失格とする。
- ④競技の最中に競技者以外の者が競技者に対し補給物資や装備の受け渡しをした場合、受け取った選手は直ちに失格とする。
- ⑤校旗やのぼりをフィニッシュゲートに取り付けることはできない。ただし、フィニッシュ時のフラッグの受け渡しは許可する。

■スイム競技

- ①先頭の選手が一周回が終わるまでに周回ポイントへ到達できないと大会本部が判断した選手に対してはスイムアップ後競技の停止を宣言する。
- ②スイムエントリー時間を厳守すること。スイムエントリーとはスイムスタート地点でアンクルバンドを受け取り、計測エリアを越えるまでを指す。これに遅れた選手の競技への参加は認めない。

■トランジション

- ①ヘルメットのストラップはラックからバイクを取り出す前にしっかり締めること。バイクフィニッシュ後はバイクをラックに掛けた後にストラップを外すこと。
- ②トランジションへのバイクの設置は全選手、大会当日の6:00~7:00までに完了すること。これを怠った場合は失格とする。
- ③バイクをラックに掛けるときは、ラックナンバーが手前に見える向き)にサドルを掛けることとし、本人が最後までラックにかけなければならない。
- ④競技用具は通路や他の選手の妨げとならないように置くこと。マーシャルは選手の公正な競技を確保する目的で、これを移動させることがある。
- ⑤バイクの乗車は、競技者のどちらかの足が乗車ラインを越えてから乗車し、バイクの降車は降車ラインの手前で競技者のどちらかの足が着いていなければならない。

■バイク競技

- ①本大会はドラフティング走行を許可する。
- ②周回遅れについて…最後尾の競技者は、先頭と基準距離以下に接近した場合、その時点で失格となり、マーシャルの指示に従い、コースアウトすること。
- ③コーナー地点では先行する競技者を優先する。
後続の競技者は先行する競技者の優先コースに入ってはならない。
- ④審判員からコーナー地点や落車などについて注意がなされることがあるが、これをよく聞き遵守すること。
- ⑤サイクルメーターの装着を推奨する。

■ラン競技

- ①キープレフトを順守すること
- ②フィニッシュではウェアのチャックを締め、サングラスを外し、観客にアピールすることを推奨する。
- ③意図的な同着は認めない。
- ④一度フィニッシュした選手が再度コース内に入る事は出来ない。
- ⑤応援関係者および選手の、競技者への伴走を禁止する。

■メディア規制について

- ①大会当日に大会に関係するいかなる写真・ビデオなどの取材・撮影においても、必ず大会本部の許可を必要とする。
- ②許可には身分証明と連絡先の提示を要する。これを提示しない者には、大会に関係する一切の取材・撮影活動を認めない。
- ③大会側から取材・撮影に関するデータの閲覧を要求し、大会側がこれを不適切であると判断した場合、データの削除を要求することがあるが、撮影者はこれに応じなければならない。

■その他

- ①本大会は、競技者以外の者が競技者に対して順位などの情報を与えることを認める。
- ②熱中症には十分に注意し、大会前日に水分を多めにとるなど事前に対策をとっておくこと。競技中、審判員及びドクターが危険と判断した場合は競技を中止させることがある。
(*)下線部は特に重要箇所であるので、十分に認識するとともに、JTU競技規則も熟読の上で大会に臨むようにしてください。競技規則についての質問は、大会前日に行われる開会式の競技説明会で受け付けます。それ以前の質問は大会六日前までは日本学生トライアスロン連合にメールで問い合わせして下さい。また、変更などがある場合も競技説明会でお知らせします。

問い合わせ先
日本学生トライアスロン連合審判委員会
jutu08_info@yahoo.co.jp